

平成28年3月14日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

総務常任委員会委員長 福田利喜

平成27年度 管外行政視察報告

総務常任委員会の管外行政視察の概要は、下記のとおりでありますので報告します。

記

- 1 期 間 平成28年1月12日(火)から
平成28年1月14日(木)まで

- 2 行政視察地 ①福井県鯖江市(人口69,138人 H27.12.1現在)
及び研修項目 ・JK課の果たす役割と成果と課題について
②福井県永平寺町(人口19,233人 H27.12.1現在)
・議会改革の取り組みと実績について
・歴史的建造物及び文化を活用した観光振興について
③福井県 総合政策部ふるさと県民局女性活躍推進課
(チームふくい)
・災害ボランティア活動のノウハウについて

- 3 出席委員 委員長 福田利喜 副委員長 畠山恵美子
委員 菅野定 委員 菅原悟
委員 藤倉泰治
随 行 局長補佐 菅野 洋

- 4 欠席委員 委員 清水幸男

- 5 行政視察概要 別紙報告書のとおり

総務常任委員会行政視察報告

総務常任委員会では、本市でも計画策定中のまち・ひと・しごと総合戦略への市民の関わり方や、歴史的建造物及び文化を活用した観光振興について、議会改革の先進事例から本市議会でも課題の一つになっている議会報告会の在り方について、及び災害ボランティア活動のノウハウについて研修するため、福井県鯖江市、永平寺町及び福井県庁を訪ね、行政視察を行った。

○福井県鯖江市

鯖江市では、まちづくり手法の一つとしてJK課を創設し、市民の視点と知恵をまちづくりに活かしていた。JK課とは、市民主役条例を制定するなど、市民参加による新しいまちづくりを進めてきた鯖江市による、実験的な市民協働推進プロジェクトのひとつであり、その中心はJK（女子高校生）が担っている。

鯖江市は、市民活動がとても盛んなまちで、NPOを始め様々な市民団体が活発に活動している。市立図書館の移転新築を契機に、旧図書館を市民団体の活動拠点として提供し、施設を有効に利活用しているのも、その活動の支えとなっている。

また、1995年に世界体操選手権、1997年に体操の世界カップが開催された。これは、人口10万人以下のアジアの都市では初めての事例であり、大会誘致・運営には市民が様々な役割を果たしたとのことである。このことが市民の熱意と活動に大きく影響し、今日の市民によるまちづくりにつながり、行政もこの経験から「市民とともに」との考え方が根付いているように感じた。

このような市民活動の活発化が、鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例や市民から市民主役条例を求められた際に、その条例案の作成を市から市民団体へと委ねられ、それが条例化されるという形に発展していった。このような市民主役、市民協働など、市民が単なる行政サービスの顧客にとどまるのではなく、まちづくりの主役となることを通じ、全員参加型のまちづくりを展開している。JK課は、そんな風土から生まれたもので「若者が住みたくなる・住み続けたくなる、まちづくり」という課題解決の一つの手段として、現役の女子高生の視点・考え方を反映させようとして設けられたものである。発表当初は、各方面から様々な意見があったものの市長始め、市側が時間をかけて丁寧に説明をした結果、今では様々なイベントに出演依頼が多くあるとのこと。

J K課の彼女たちの身の丈に合った活動を続けているが、市民団体や企業を巻き込んだ活動へと発展してきている。活動の広がりだけでなく、彼女たちが自分たちのまちを知り、誇りを持つことにつながっているとのこと。第1期のメンバーの中からは、将来は鯖江に帰ってきてまちづくりに参画するため、まちづくりに関する学科へ進学されたメンバーもいるとのことだった。

このJ K課の活動は、その活動に刺激を受けた40代～50代の女性たちで組織されるOC課（おばちゃん課）の設立へと広がりを持ち、行政職員と議員だけが考えるのではなく、まちの課題解決へ向けた手法の一つであり、本市でも用いることができる手法であると感じた。

○福井県永平寺町

福井県永平寺町は、曹洞宗大本山「永平寺」がある町として有名であり、産業の一つとしての永平寺観光を有している町である。近年は、永平寺への参拝客の減少が見られ、平成23年に大本山永平寺とともに「禅の里」まちづくり実行委員会を永平寺とその周辺地域の文化遺産を地域活性化につなげる方法を模索することを目的に設立された。

背景には、減少し続ける観光客数が大きな要因となって公共事業によるテコ入れだけではなく、地元住民の手によるまちづくりの必要性を大本山永平寺が訴えたことが発端になっていた。

事業への住民の参画・啓発の展開には、かわら版の発行やローラー作戦として、担当職員と実行委員会事務局員とで永平寺が所在する地域住民との話し合いの場を設定し、また、特に地域活性化のカギを握る土産物店には、担当者が一軒一軒回って周知を図った。さらに、地区外の住民で実行委員会の活動に必要と思われる人材の一本釣りを行ったとのことであった。

人材の育成については、何度も公私の別なく実行委員と会合を持ち、まちづくりの意欲を芽吹かせる情報配信がされていた。その中から、永平寺の持つ様々なものをテーマに講演会を開催し、さらにはボランティアガイド育成事業も行い、初級・中級のほか、小学校高学年を対象にした子ども語り部の育成も行われていた。また、あわせて永平寺の老典座による精進料理体験や永平寺モニターツアーなども開催し、地域の方々にも禅を中心とした文化を再認識してもらうなどの活動がなされていた。私たちから見ると大本山永平寺という優れた観光資産に胡坐をかかず、子ども語り部とボラ

ンティアガイドの育成など、地域が有する文化資源を再認識しながら、持続可能な観光振興に取り組んでいた。本市にあっても震災語り部の育成やモニターツアーなど、導入できるのではないかと感じたところである。

もう一つの視察目的である議会改革の取り組みは、「考動」・・・考え動く議会とし、「開かれた議会」、「行動する議会」、「提案する議会」の3つを柱として議会活動がなされていた。特に、町民と議会の対話とコミュニケーションを大切に「議会と語ろう会」を積極的に開催していた。

懇談会から意見交換会として、年2回の議会報告会。名称を「議会と語ろう会」とし、より多くの町民に参加してもらうため平成24年5月からは、身近な集会所等で開催。語ろう会で出た質問等については、全回答をホームページに掲載し、役場の本支所に冊子として配置されていた。さらには、情報発信ツールの活用も積極的になされており、議会と語ろう会の開催直前に発行される議会だよりには、テーマと内容を掲載するほか説明資料を事前にホームページに掲載するなど、参加者が多くなるよう、また、その内容がより充実したものになるよう工夫されていた。周知するためのポスターなども作り、議員自らが配布や掲示作業を行っているとのことで、デザインや内容も斬新で住民が興味を持つようにされていたことも強く印象に残った。

情報発信は、ホームページと Facebook を活用し、私たちが視察にお邪魔した際もすぐに視察の状況を Facebook に掲載されていた。

視察対応も議長を先頭に議員が積極的に担当しており、事務局に任せきりではない姿勢が伺えた。議長からは、ルーティンワーク化することなく、常に改革・改善を心掛けているとのことで見習うべき点が多々あった。議会報告会の周知方法などについては、すぐにでも本市においても検討すべき事項だと感じた。

○福井県 総合政策部ふるさと県民局女性活躍推進課（チームふくい）

東日本大震災発災直後から「チームふくい」として、本市の様々な救援活動に尽力された福井県のボランティア活動について、その成り立ちとともに活動の基本を調査した。

福井県が、これほどまでにボランティア活動を行っている背景には、二つの大きな災害が教訓となっている。一つは、平成9年に発生したロシア船籍タンカー「ナホトカ号」による油流出事故における災害ボランティア活動の経験、そしてもう一つは、平成16年に発生した福井豪雨の経験。この二つの災害時には、全国から多数の災害

ボランティアが訪れ、その協力の下、迅速な復旧が進められた。そのことから、平時から県、県民及び関係団体等が協働して災害ボランティア活動の推進を展開することが重要との認識に立ち、協働の理念に基づいた活動の重要性を広く全国に広げた。そして、それらの活動が大きな要因となり、福井県が災害ボランティア活動の先進県となることを宣言し、平成 17 年に災害ボランティア活動推進条例が施行された。

実際の運用の中心は、福井県災害ボランティアセンター連絡会が担っており、市町災害ボランティアセンターとも連絡を密にし、円滑な活動がなされるような仕組みになっていた。

また、センター運営のマニュアルも整備され、平時からの備えとしての研修や訓練もなされており、本市においても、災害ボランティアセンターの運用マニュアルの整備が早急に必要であると感じた。

結びに、福井県を挙げての支援に対し、丁寧に御礼を申し上げてきたことを申し添えます。

以上、福井県鯖江市、永平寺町及び福井県庁の視察を終え、市民との協働の在り方、地域資源を活かした観光振興及び災害対応について、本市でも取り入れることができるものが多々あったと感じ、また、永平寺町の議会改革においては、本市議会でも即実行可能なものがあり、議会に参画するものの心構えとして非常に参考となった。